

「心をかたちに」～言葉と行動、思いやりと支え合い～



緑野

札苗中学校学校だより  
令和7年度卒業式号(495号)  
令和8年(2026年)  
3月13日発行



<http://www.satsunae-j.sapporo-c.ed.jp>

## 第50回卒業証書授与式にあたって

札幌市立札苗中学校長

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、本日をもって中学校を卒業します。そしてこれは9年間の義務教育を終えることも意味します。

皆さんが歩んできたこの期間は、まさに激動の年月でした。胆振東部地震などの自然災害やロシアのウクライナ侵攻などの国際紛争も様々ありましたが、やはり大きかったのは、令和2年頃から拡大した新型コロナウイルスによる被害です。感染拡大を防ぐため、学校が全国一斉臨時休業になりました。学校再開の後にも、主立った儀式や行事が中止や実施内容が縮小されるなど、多くの教育活動がその影響を受けました。たくさんの仲間と関わり合いながら、心も身体も伸びやかに過ごすべき時間を、この期間、私たちは封じられてしまいました。

その後訪れる、ICTの普及、AIの加速的な進化、多様性尊重への理解…。そのような変化の中を遅くも過ぎてきた皆さんですから、これから先に待ち受けているであろう世の中の変化も、まさに本校の教育目標にもある「未来を開く遅しさ」をもって乗り切っていくと信じています。

昨年は「令和の米騒動」などと言われ、お米の価格が高騰するという事もありました。

これは今から10年以上前に、10歳ほど年上の知り合いの米農家から聞いた話です。現代の田植えは専用の車で行っているのは知っていると思います。その方が人の手で植えるより速く正確に、つまり効率よく稲を植えられます。そこへ更に、その車に搭載できるGPSが開発されたと言うのです。そのお陰で数センチのずれも教えてくれ、稲の間隔も整ったきれいな列で田植えを行うことができるようになったのだそうです。私は「そこまでして真っ直ぐに植えないとだめなんですか。」と質問しました。その答えはこうでした。「最初は気付かないぐらいのずれでも、それが後には大きなずれに広がっていく。それに、グニャグニャしていると、結果として、稲の作付面積に無駄ができることにもなるのだ。」と。なるほどと思いました。稲の収穫高、つまり収入にも影響が出るのです。

人生にGPSはありません。

今、もしかするとちょっとずれているのかもしれない。そのことに気付いた頃には、大きなずれとなり、無駄を作ることになっているかもしれません。あるいは取り返しがつかないことになっているかもしれません。

そのずれを修正するためには、その時々自分自身を振り返ってみること。そして、他人の言葉を謙虚に受け入れる気持ちが大切なのだと思います。その上で、自分にとっての「ゴール」をしっかりと見据えて進んでいくしかありません。

ただ、私は、人生には多少の無駄はあってもいいのではないかと考えています。たとえ「グニャグニャ」生きて、ある程度であればそれが糧となります。多少の寄り道も豊かな経験となって、人生の幅を広げてくれるのではないのでしょうか。



先日、6組の「卒業を祝う会」で、私が中学生時代の先生が、当時の生徒会誌の中で記していた言葉を紹介しました。「この世の中で一番大切なものは、自分の健康です。二番目は家族です。どちらもなくしたときに分かります。」という、非常に短い文章でした。初めて目にしたときから私の心に強烈に残っており、その生徒会誌が手元がない今でも、はっきり心に残っています。

これも一つの「心をかたちに」なのでしょう。

「心をかたちに ～言葉と行動 思いやりと支え合い～」皆さんが何度も聞いた、本校のキーワードです。

最後に皆さんに伝えたいのは、「かたち」になった「心」は、やがて、他の人へと受け継がれる、ということです。皆さんがこの3年間で、学習や行事、部活動などに取り組む姿を通して札苗中学校に残した「心」は、後輩たちや私たち教職員にも受け継がれていきます。

また、皆さんの中にも、本校50年の「心」が受け継がれているということを実感してもらえれば、これ以上うれしいことはないと思っています。

そして、先ほどの言葉にあったように、大切なものは家族です。皆さんにとって最も身近な「GPS」でもあります。これまでも、そしてこれからも皆さんを支えてくれるのは家族です。感謝の気持ちを忘れないでください。

たとえ目の前の壁にぶつかっても、愛されている自分を信じ、思いやりをもち、夢をいだき、勇気を起こして未来を切り開いていってください。そして、これからの予測困難と言われる時代を、皆さんの力でよりよい世界にしていってくれることを期待しています。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。この15年間、言葉にできぬ、一方ならぬご苦勞があったことと思います。これから子どもたちは、大人の社会に一步ずつ確実に近づいてまいります。温かく見守っていただくと同時に、最も身近な大人として、また、人生のよき先輩として、更なるアドバイスを、子どもたちをお願いいたします。

卒業生の皆さん、ぜひ、この札苗中学校での出会いや学んだことを元に、胸を張ってこれからの人生を歩んでいってください。

いつまでも応援しています。

ご卒業おめでとうございます。



# お祝いの言葉

例年に比べて、雪の多い冬となりました。視界のきかない吹雪の中での登下校や、足元の厳しい通学路を歩く日々もあったと思います。そんな環境の中でも、先輩方は弱音を吐くことなく、一步一步前へと進み続けてこられました。本日、このように晴れやかな日を迎えられましたことを、在校生一同、心よりうれしく思います。卒業生の皆さん、本日はご卒業、誠におめでとうございます。

部活動では、目標に向かってひたむきに努力する先輩方の姿が強く心に残っています。苦しい練習の中でも仲間と励まし合いながら取り組む姿は、私たちに努力の尊さを教えてくださいました。また、キタラで行われた合唱コンクールでは、広いホールいっぱいに響く美しい歌声と心をつなげたハーモニーに、大きな感動を覚えました。堂々と歌う先輩方の姿は、今でもあこがれです。更に、生徒会活動では、学校全体のことを考え、よりよい学校づくりのために尽力される姿がとても頼もしく感じられました。

先輩方が築いてくださった伝統と温かな校風を、これからは私たちがしっかりと受け継いでいきます。どうか新しい場所でも、自分らしさを大切にしながら力強く歩んでください。卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心よりお祈りし、送辞といたします。

令和8年3月13日 在校生代表



# お別れの言葉

冬の名残がありますが、路肩の雪山も少しずつ低くなり、春の気配が遠くから見え始める季節になりました。本日、私たちはこの札幌中学校を卒業します。この3年間で、私達は多くのことを経験しました。そして、今、私達は成長することができたと確信をもって言えると思います。

部活動では、勝敗や入賞など結果が形で現れるという厳しさを学びました。もちろん嬉しい経験もありましたが、それと同じくらい悔しい経験をしているはずで、私も、もし部活動をしていなかったら、思うような結果が出せず悔しい気持ちになることや、足を引っ張ってしまい申し訳ないという苦しい気持ちにはなることはなかったのかもしれない、と思うことは多々ありました。しかし、私は部活動をやらなければよかったとは思いません。むしろ、やっていたよかったですと心から思っています。私は、バドミントン部に所属し、試合の勝ち負けで、一喜一憂をしながら日々を送っていました。もちろん、結果にこだわることは重要です。しかし、ダブルスのペアと「どうすれば勝てるのか」を必死に話し合い、お互いの未熟な部分も認めながら一つの目標に向かい努力した経験は何にもかえがたいものになりました。

このような経験を経て、結果に至る過程こそが私達にとって重要であったと気付きました。これは、部活動に限った話ではありません。私達が経験した受験も同じです。自分が入りたい学校のため、必死に自分の目標に向けて努力してきました。結果に関わらず、目標に向けて努力した時間はきっとこれからの私達の財産になり、私達を形作るかけがえのないものになったと思います。

そして、その経験をこの札幌中学校の仲間とともに分かち合うことができたと感じています。学校生活をともに歩んできたみんながいたからこそ、今の私達がいます。

また、どのような時でも、私達を最も身近で支えてくれた存在は私達の家族です。これまで、支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお祈りします。皆様のおかげで私達は今まで、これからも、豊かな人生を歩んでいけると感じています。

これから、私達は違う道を進んでいきます。困難に直面することもあるかもしれませんが、札幌中学校の仲間とともに学び、培ってきた経験を生かしてこれからも歩いていこうと思います。

最後となりましたが、私たちの人生の節目としてこのような機会をいただけたことに深く感謝し、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和8年3月13日 卒業生代表

# 3年生へ感謝の言葉

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。僕たち1年生は、卒業式当日には残念ながら参加することができませんが、1年生を代表して心からお祝い申し上げます。

1年前、大きな制服に身を包み、不安と期待が入り混じった気持ちで入学した僕たちを、いちばんに温かく迎えてくださったのは先輩方でした。委員会活動では丁寧に仕事を教えてくださったこと、さりげない気遣いの一つ一つが、僕たちの学校生活を支えてくれました。また、部活動では苦しい練習の中でも声を掛け合い、最後まで諦めない姿勢を教えていただきました。先輩方と一緒に汗を流した時間は、僕たちにとってかけがえのない宝物です。

もうすぐ先輩方が卒業されると思うと、とても寂しい気持ちになります。しかし、先輩方から教えていただいたことを大切にして、これからは僕たちが後輩を支えられるように頑張りたいと思います。

先輩方のこれからの高校生活が、楽しく充実したものになることを願っています。本当にありがとうございました。改めて、ご卒業おめでとうございます。

令和8年3月12日 在校生代表



## 1・2年生へ送る言葉

卒業生を代表して、在校生の皆さんに、残りの中学校生活で、自分自身の成長のために大切にしてほしいことを三つお話しようと思います。

一つ目は、努力です。努力というものは、目標に向かって何かを継続して頑張ることです。その中で面倒くさいな、苦しいなど感じることもあると思います。私は、それらの感情を感じたときに、いかに正面からぶつかって戦うことができるかということが大切だと思います。「苦しいときこそ成長できるチャンス」という言葉が私の中にはあります。苦しいとき、もうやめたいと思うときこそ努力をすることが成長につながると思います。

二つ目は失敗です。失敗と聞くと、あまり良いイメージはないと思います。今まで、思うようにならなかつたり、逆に思っていなかったことが起きてしまつてうまくいかなかつたりしたことがたくさんあったと思います。そして、再び失敗することを恐れて、挑戦できないということもあると思います。ですがここで、失敗の経験を冷静に振り返り、改善策を考え、また気持ちを切り替えて挑戦することができたら、成長できると思います。

三つ目は当たり前です。中学校の三年間にはたくさんの出会いや出来事が詰まっており、周りの環境も目まぐるしく変化していきます。仲間とともに笑い合つて過ごせること、毎日授業を受けられること、行事に全力を注げること、身の回りには当たり前が溢れています。ですが今当り前のことは、卒業してしまうとそうではなくなります。それらは思い出となって心に残り続けるのです。ですので、大切にしたい当り前は、大切にしたい分良い思い出となるということを心のなかに留め、過ごしてほしいです。

これらは、卒業を明日に控えた私たち3年生だからこそ感じることです。今お話した、「努力」「失敗」「当たり前」を大切にすることが、在校生の皆さんの成長につながれば嬉しいです。

最後に、私たち3年生の中学校生活に関わつてくださった、先生方、在校生の皆さんを含む全ての方々に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

令和8年3月12日 卒業生代表